カトリック教報

カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852－8113
長崎市上野町10－34
カトリックセンター内
TEL 095－843－3869
FAX 095－843－3417
振替口座 01880－5－2699
発行人
山田良秋
印刷所
株式会社 インテックス

教皇さまの意向

・宣教
洗礼で信徒となった人々、特に女性信徒が教会の責任ある分野にいっそう参加できるように

・日本
医療や科学に携わる人々が、それぞれの専門分野を通していのちに仕え、神の創造の業に参与できるように

訪日から11月で丸1年

「すべてのいのちを守るため」教皇様の呼びかけに応えているか

©Vatican Media

「すべてのいのちを守るため PROTECT ALL LIFE」をテーマに掲げた教皇フランシスコの訪日（2019年11月23日～26日）から11月で丸1年を迎える。教皇は、日本の各訪問先でメッセージを発信し、長崎（11月24日来訪）でも語られた。その後、わたしたちの日常は教皇の呼びかけに応えるものとなっているだろうか。実際のところ長崎教区全体としての動きは特に見られない。しかし、一人ひとりの心のありようは自由で、各自あるいは各共同体の意識によって刷新できる機会は常にある。新型コロナウイルス感染症の影響や教区に関わるさまざまな問題・課題の中にある状況だが、丸1年を前に教皇訪日を振り返り、いま一度そのメッセージを心に刻みたい。（広報）

訪日意向の表明に始まり

2018年9月12日、教皇フランシスコが初めて日本訪問の意向を表明され、翌19年9月13日バチカンによる公式発表があった。日本の教会は1年間、教皇訪日の話題が度々報道される中、ひたすら公式発表を待つ状態にあったことが思い出される。発表後は、長崎においては教皇訪日長崎実行委員会を中心に一気に準備が進められ、当日11月24日を迎えた。来日テーマは「すべてのいのちを守るため PROTECT ALL LIFE」。教皇は、東京、長崎、広島、東京…と過密スケジュールをこなされ、各訪問先で人々と対話し、メッセージを残された。

長崎では、爆心地公園で被爆者や行政関係者、子どもたちを含むさまざまな世代の人々を前に「核兵器に関するメッセージ」を発表し、人類の平和の道を訴えた。西坂公園では「日本二十六聖人殉教者への表敬」のメッセージを述べ、殉教者たちの信仰の証しと世代を超えて受け継がれた信仰の大切さを励ましとともに伝えた。県営野球場・ビッグNスタジアムでは、約3万人が集まったミサを司式し、愛と平和を願い、祈りをささげた。

今年の年頭教書

本紙2020年1月号、今年の年頭教書を覚えておられるだろうか。髙見三明大司教は、「教皇様の呼びかけにこたえよう」と伝えている。

「教皇様は、はるかローマから長崎に来られ、感動的な出会いと力強く知恵に満ちたメッセージを残してくださいました。今後日本の教会と共にそれにこたえていきたいと思います」

教皇様のメッセージ（抜粋）

「すべての人の参加が必要」

爆心地公園

「核兵器から解放された平和な世界。それは、あらゆる場所で、数え切れないほどの人が熱望していることです。この理想を実現するには、すべての人の参加が必要です。（略）核兵器の脅威に対しては、一致団結して応じなくてはなりません」

「今の地球の状態から見ると、その資源がどのように使われるのかを真剣に考察することが必要です」

「今日もなおわたしたちの良心を締めつけ続ける、何百万もの人の苦しみに無関心でいてよい人はいません。傷の痛みに叫ぶ兄弟の声に耳を塞いでよい人はどこにもいません。対話することのできない文化による破滅を前に目を閉ざしてよい人はどこにもいません」

「復活を告げる場所」

西坂公園

「この聖地は、死についてよりも、いのちの勝利について語ります。聖ヨハネ・パウロ二世はこの地を、殉教者の丘としてだけでなく、まことの真福八端の山と考えました。（略）ここは何よりも復活を告げる場所です。あらゆる試練があったとしても、死ではなくいのちに至るのだと、最後には宣言しているからです」

「今の日本にある教会が、すべての困難と展望を含め、十字架の上から放たれた聖パウロ三木のメッセージに日々耳を傾けるようにとの招きを感じ、道、真理、いのちであるかたの（ヨハネ14・6参照）福音の喜びと美を、すべての人と分かち合えますように。わたしたちに重くのしかかり、謙遜に、自由に、大胆に、思いやりをもって歩むことを妨げるものから、日々解き放たれますように」

「信仰と約束を新たに」

県営野球場でのミサ

「今日ここで、わたしたちの信仰と約束を新たにしたいと思います。あの悔い改めた盗人と同じく、わたしたちは、失敗、罪、限界のある自分の過去をよく分かっています。けれどもそれが、わたしたちの現在と未来を既定し、決定づけるものであってほしくはありません」

「天の国は、わたしたち皆の共通の目的地です。それは、将来のためだけの目標ではありません。それを請い願い、今日それを生きるのです」

教皇様の呼びかけに応えているかどうか、日々の出会いや出来事の中でいつもわたしたちは自問自答し、祈り、具体的な行動へとつないでいきたい。

教区の会計に関する問題

司祭集会で質疑応答と話し合い

本紙9月号4面に掲載された「長崎教区の皆様へ お詫びとご報告」に関する件で、当該関係者による直接の報告とその内容を受けて話し合いをする司祭集会が、8月24日（月）13時からカトリックセンターで行われた。

集会は、教区長の髙見三明大司教と司教総代理の中村倫明補佐司教、教区本部事務局長の中濱敬司師、前教区会計の下窄英知師らが登壇した。第一部では、「教区会計上の重大な不手際」について、教区司祭と長崎教区で働く修道会司祭合わせて約60人が参加する中、経過報告と関係者による謝罪の後、質疑応答が行われた。第二部は教区司祭団のみが参加し、顧問団としての責任、また兄弟司祭としての司祭団の協力のあり方について意見が交わされた。

中濱事務局長は、「重々しい雰囲気の中、不祥事のきっかけ、関係者の具体的な処分とその現在の心境、再発防止に向けての検証や具体的取り組みなど、教区の刷新に向けてのさまざまな質疑応答が交わされました。何より、信者の皆様への信頼回復が最優先であり、顧問団の責任やその対応の甘さが指摘されました。顧問会で検討を重ね、金銭的な補填計画はもとより、今後の教区の具体的対応についても真摯に向き合わせていただきます」と語った。

司祭集会とは別に、各小教区の司祭と信徒の代表者らを対象とする説明会は9月21日（月）教区評議会総会の中で実施。

駐日教皇大使 チェノットゥ大司教 逝去

9月8日午前1時29分、小脳梗塞による大孔ヘルニアのため駐日教皇大使ジョセフ・チェノットゥ大司教が、入院先の東京・聖母病院で逝去された。76歳。

1943年10月13日インド・ケララ州、シリア・マラバル典礼カトリック教会のエルナクラム・アンガマリー大司教区のコカマンガラム生まれ。69年5月4日司祭叙階。教会法博士。77年からカメルーン、トルコ、イラン、教皇庁国務省外務局で、また臨時教皇大使代理としてベルギー、スペイン、北欧諸国、中華民国（台湾）で活動。99年8月24日ミレヴィ名義大司教また駐中央アフリカ共和国およびチャド共和国教皇大使に任命。同年10月30日司教叙階。2005年6月15日タンザニア連合共和国教皇大使に任命。11年8月15日駐日教皇大使に任命、同年10月20日来日、着任した。

熱心に各地を訪問され、長崎にも8月の平和祈願祭の折には日本語でメッセージを述べられるなど、日本の教会と人々に寄り添う姿勢を示された。今年5月8日、脳梗塞のため入院し、治療を続けていた。追悼ミサは、9月17日（木）午後2時から東京カテドラル聖マリア大聖堂で髙見三明大司教（司教協議会会長）の主司式により行われた。（写真は昨年9月16日中村倫明補佐司教の叙階式で祝辞を贈る大使）

神学院一泊体験入学のお知らせ

今年も「神学院一泊体験入学」を実施いたします。ぜひご参加ください。

日時　10月24日（土）午後12時30分受付～25日（日）午前11時30分解散

場所　長崎カトリック神学院

対象　小学5年生～高校2年生のカトリック男子

定員　10名（新型コロナウイルス感染予防のため、人数を制限いたしました）

申し込み締切と方法　10月4日（日）定員になり次第締め切らせていただきます。各小教区に「ご案内」と「申込用紙」をお送りします。主任司祭を通してお申し込みください。

司祭助祭叙階式のお知らせ

10月11日（日）15時 浦上教会

司祭叙階受階者
シモン 稲田 祐馬（八幡町）

助祭叙階受階者
ヨセフ 鼈甲屋（べっこうや） 賢治（宝亀・中野）

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加者の制限があります。
参加できない方も共にお祈りください。

ほしかげ

パパ様の来崎から間もなく1年、喜びの余韻を反芻（はん すう）する余裕もなくコロナ禍に戸惑う日々。初めの頃は、数カ月もすれば普通の生活に戻れるだろうと漠然と考えていたが、実際には、いつ終わるとも知れない状態が続いている。これまで当たり前だと思っていた生活が、実はそうではなかった、お恵みだったのだと気づかされる毎日。報道によると、100年前のスペイン風邪流行の時と同じような状況とのこと。3密にならないように注意しながら生活する中、あいさつの時に一定の距離をとってお辞儀する日本文化は、ソーシャルディスタンスを保つ文化だったのか、などと思ったりする▲10月はロザリオの月。今年は皆で集まって祈ることが難しく、各人それぞれの場で祈る方も多いのではなかろうか。このような状況下、聖母マリアの取り次ぎを願いながら心を合わせて祈る時、「この世の闇路の嵐の中にいるように思える時、星を仰ぎ、マリアを呼びなさい」と聖母マリアを大海原に輝く星にたとえた、聖ベルナルドのことばが思い起こされる▲また、教皇様が感銘を受け大切にしておられるという『結び目を解く聖母マリア』の絵。聖母は、わたしたちが人生でぶつかる様々な問題を、絡まったリボンの結び目の一つ一つを解くようにして、その祈りをキリストへと取り次いでくださる。聖母マリアに共に心を合わせて祈りたい。（良）

わたしたちが受けとったもの、伝えていくこと

教皇来崎からの始まり⑧

聖霊の小さな通気口になろう

けがれなき聖母の騎士聖フランシスコ修道女会　西村 和子

どこを切っても金太郎という金太郎飴があったことを知る人も少なくなってきました。教皇フランシスコの話はどこを切っても命、人の命、地球の命、どの部分を見ても命が出てきます。

置かれた場所でパン種となる

教皇フランシスコはたった4日間の日本訪問でした。しかし、教皇フランシスコが日本に共にいるというだけで、日本全体に何か温かい、命に活気があることを感じました。特に長崎では原爆（落下中心地）公園、26聖人殉教地の西坂、長崎ビッグNスタジアム、大司教館、長崎空港と、長崎市内の多くを移動されすべてのところに祝福を残されました。ところが、教皇フランシスコが来日し祝福された長崎の中に大きな喜びの結果が生まれる前に、新型コロナウイルスのことで世界中がパニックになったかのようでした。テレビニュースは、新型コロナウイルス感染症のことばかり報道するようになり、とても恐ろしいことのように感じました。

教皇フランシスコは、宣教するための弟子としての使命は「神の国のパン種になるように駆り立てられ、家庭、職場、社会、どこであれ、置かれた場所でパン種となるよう駆り立てるのです」と言っています。

カトリック教会が、このコロナウイルスが拡散していく中で人々とどうかかわっていくか、置かれた場所で人々に必要なパン種となることができるか、置かれた場所の必要性に気づくことが必要でしょう。

すべてのいのちを守るために

コロナショックといわれるほどに経済面で大きな打撃を世界中が受けています。人の流れが断たれ、動かなくなると経済も動かないということをこれほど大きく感じたのは、今までにないことのように思えます。そこで経済を優先にとの声も聞こえています。経済が成り立たなければ人も死ぬという。5月の連休前のことなのに、過ぎ去って長い時間がたったように感じられますが、小池都知事の「いのちを守るSTAY（ステイ）HOME（ホーム）週間」がありました。「自分を守る、そして家族を守る、同時に社会を守るための新たな行動をもう一度見直していただきたい」と呼びかけました。この言葉を聞いた時にすぐに教皇フランシスコの来日テーマを思いました。「すべてのいのちを守るため」という呼びかけに、いま日本国民全体がもう一度振り返る時が来ているのではないかと思いました。

ウイルスという見えないものとの闘いに先が見えずに、いら立ち、恐怖心、不安感、疑い、そこに経済的打撃による困惑などのためにストレスがたまり、思わぬ悪の結果に転じたりしています。苦境の中にあっても、わたしたちは神様からいただいた命を生きることが、一人ひとりに与えられた生きることの使命であると思います。教皇フランシスコは「日本で、そして世界中で、あらゆる命を神からのかけがえのない賜物として守るために、臆することなく声を上げていく使命を果たせますように」と語られました。

福祉のゾンビにならないように

教皇フランシスコは「すごいと思ったり、驚いたりする感性を失った人たちがいます。ゾンビのように心の鼓動が止まってしまった人たちです」と語られました。

「福祉は人の命・尊厳を守ることが一番の目的であり、その人なりに神様からいただいた人としての成長と幸福のために協力すること」であると考えます。戦争・原爆で破壊された物は時がたてば、違った形であっても回復していきます。しかし、人の命は一旦失うと、同じ人間はもう二度と戻ってきません。そして、心に傷がつくと、物のように簡単に部品を変えたり治療をしたりすることはできません。命に傷がついたからです。

今、福祉の世界も変わってきて、以前は、施設利用者には措置制度というものがありました。措置制度は、福祉サービスを受ける要件を満たしているかを判断し、またそのサービス開始・廃止を法令に基づいた行政権限として措置により提供する制度です。これに対して契約制度は、利用者が福祉サービスの提供者（事業者）との契約に基づいてサービスを利用する制度です。措置制度では行政側の判断が強くなるために、利用者の意向が反映されにくいという構造が指摘され、社会福祉基礎構造改革以降、全体としては措置制度から契約制度への移行が加速化しています。

このことによって、選ばれる施設づくりという競争が始まり、その中では経済的にも難しく、企業的に利益をあげないと経営がうまくいかなくなります。以前のように社会福祉は人の心に寄り添いながら、ゆったりとした姿勢ではできない現状になりつつあります。経営について深く考えなければ、職員の給与や施設の運営が成り立ちません。事業が成り立っていかなければ行き場を失う利用者もいるでしょう。職員を解雇しなければならない結果も生まれるでしょう。措置制度は行政が考えてくれることが多かったので、指導の波に乗っていればよいというように、安泰としたものでした。

福祉が経済的経営にのみ心を奪われ、カトリックの愛と奉仕の精神である、人の命を大切にし、人々の幸せを願うという奉仕・働きをなくせば、〝福祉のゾンビ〟になるでしょう。そのようなことがないように。福祉の中にはサービスを受ける人だけでなく、そこで働く方たちを大切にし、その方たちの命が大切にされ、働きの中に幸せがなければ本物ではありません。福祉の中で働く人々、サービスを受ける人々が共に大切にされ幸せであることによって生き生きしたものになるでしょう。

小さくされた人々と共に

教皇フランシスコは日本を訪問され、日本に一番何を望んだのでしょうか？ 核廃絶だけだったのでしょうか？ 小さくされた人々に思いをはせることでしょう。

以前は小さき人といわれていましたが、今は小さくされた人々といわれます。人間は神様の前にみな平等で、小さい人はいないはずです。「中心に居場所がなく周縁に追いやられて小さくされた」という意味です。小さくされた人々の声を大切にし、何が善であるかを共に見つめ合うことが必要と感じます。

教皇フランシスコは「イエスこそ、もっとも隅に追いやられた人であり、与えるための祈りに満ちている人でした」と言っています。

カトリック教会の現状も、実際に若者の教会離れや将来の教会の運営などについても心配があるでしょう。信仰の先祖たちのことを思い出し、何を大切にしていたかというと、奪われるものではなく奪われることのできないものを大切にしていたのではないでしょうか？ 殉教者もたくさん出ました。もう一度わたしたちの教会全体を見つめ、イエス・キリストの心、教えは何であったかを省みる時が来ているのではないでしょうか。悪を悪とも知らずに、結果的に悪い結果が出た時、それは自分が善かれと思ってとった行動であっても、社会的悪の結果が出たならば、社会的に償いが必要です。自ら償いの道を歩むことは謙遜が必要です。謙遜な姿で償うことによって人々からのゆるしがもたらされるでしょう。

小さくされたものと共に生きる世界をつくるカトリック教会であり、生きていることが苦しくなった人々の小さな通気口の役に立てたら…。

教皇フランシスコは「聖霊が人々の間の希望の風通しとして吹き続けるための、小さな通気口となることです。天の国は、わたしたちの共通の目的地です」と語りました。

聖母マリア様を通してイエス様の温かな御心にたどり着けますように祈りつつ。

お知らせ

〈新しい電話番号〉

イエスのカリタス修道女会外海修道院の電話番号が変わりました。

TEL 0959-25-1554

短信

〈堅信式〉

7月19日（日）西町教会で中学生5人が堅信の秘跡にあずかった。

ぶどう園

▼浦上教会での教区行事

【司祭助祭叙階式】10月11日(日)15時～【司祭の日・記念ミサ】10月12日(月)10時30分～

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため参加者制限がありますが、心を合わせてお祈りください。

▼自死された方々のための追悼ミサ　11月7日(土)14時、滑石教会。ゆりの会主催。教区人権委員会協力。

問合先・鳥巣シオリ TEL 090-9488-7931

感謝

―寄付―

長崎カトリック神学院

●谷口初男様（新田原）
故マリア玉屋カヨ様の意向として

●川原輝代様（中町）

―香典返し―

長崎カトリック神学院

●高野繁美様（出津）
故フィロメナ高野カネ様

●古川義光様（浦上）
故マリア古川フサノ様

右の方々からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

石碑
文字彫刻
墓地工事
リフォーム
墓地分譲

長崎石彫（ながさきせきちょう）
ヨゼフ　岩永　博明
☎(095)862-2469
長崎市梁川町 6-17　岩永ビル

タンスの中身は入れたまま
責任ある安全運送!!
（見積り無料・荷造り発送も致します）
貨物保険有り
・一般引越　・小荷物
・荒ゴミ捨て　・遠距離
・学生引越　・ピアノ運搬
24時間営業・年中無休
受付時間 7：00～22：00
水浦運送
シモン　水浦　幹雄
長崎市上野町12－3
TEL(095)(代)847－7151
844－1420

CALIS Catholic Life Service
カリス通信 No.8
企業財産包括保険のご紹介

学校、病院、社会福祉施設を運営されているお客様の多くは、1つひとつの建物が大きい、敷地内に多くの建物を保有する、他の場所にも敷地があるなど、大きな物件や多くの建物を保有されています。カリスでは、このような学校、病院、社会福祉施設のお客様に、企業財産包括保険をご提案しております。今回は、本保険の特長をご紹介いたします。

＜企業財産包括保険の特長＞

＜特長1：まとめる＞
お客様が所有する財産（建物、屋外設備、設備什器）を1契約でまとめて加入、補償することができます。まとめることで管理しやすくなります。

＜特長2：柔軟な保険設計＞
物件のリスク状況や、お客様の保険加入方針に基づき、補償の対象となる事故ごとにきめ細やかな支払限度額や免責金額の設定が可能です。設定する金額や免責金額に応じて、保険料の節減も可能となります。

＜特長3：自動補償＞
通常の火災保険では、新たに取得した物件の都度、申込みと保険料支払い手続きにより補償を受けることができます。企業財産包括保険（全物件方式）では、保険期間中に新たに取得した物件についても、保険期間終了時まで、通知や手続きを行うことなく自動補償いたします（期末時に保険料を精算させていただきます）。都度の手続きが不要のため、加入漏れがなく安心です。（※新たに取得した物件の合計価額が、契約時の保険金額の30％以内かつ50億円以下であることが自動補償の条件となります。）

カリスでは、お客様の財産リスクに対する適切な補償や、ご予算にあわせたご提案をしております。企業財産包括保険をご提案したお客様から「わかりやすい提案書をいただきありがたい」とお褒めのお言葉をいただきました。

引き続きお客様にベストな提案を努めてまいります。

私たちが、お守りいたします。
服部秀昭　大水文隆神父（顧問）　杉谷英一
三條貴英　春田照美　毛利玲子

カトリック共済システム 有限会社カリス
〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10 日本カトリック会館　TEL：03-5632-4449　FAX：03-5632-4468
連絡先 0120-77-0033 http://www.calis.co.jp/
リスク・補償に関して何なりとお気軽にお問い合わせください
19-TC03967

祝・滑石小教区創設50周年

滑石教会は今年、小教区創設50周年を迎え、8月30日（日）高見大司教様司式の下、ゴミサを捧げていただきましたが、新型コロナウイルス感染予防のために、たくさんの信徒で大司教様を歓迎できず残念でした。

昭和40年頃から滑石地区は大規模なベッドタウンとして急激に発展し、滑石地区の信徒たちは教会建設を計画しましたが、滑石には滑石大神宮があり、他の宗教施設の建設は敬遠されていました。しかし既に長崎聖母幼稚園があり、幼稚園の集会場としての許可を得て建設することができました。

1970年に小教区として西町教会から独立し、翌71年に献堂式が行われ、当時、萩原 劭神父様が赴任した時は司祭館も無く、大変不自由な思いをされたことと思います。それから50年、3人の司祭が誕生し、現在11代目の山脇 守神父様を主任に迎えています。創設当時は約470人の信徒でしたが現在3800人の信徒を抱え、長崎教区でも中心的な役割を果たす教会の一つとなっています。

創設当初教会の発展のためにご尽力くださいました諸先輩の方々をはじめ、歴代の主任司祭と助任司祭に心より感謝申し上げますとともに、これからもご指導をお願いいたします。

（経済評議委員 鈴木 博）

小教区再編のためのお願い

さらに一つになるチャンス

プロジェクトチーム代表　補佐司教　中村 倫明

皆様方もご承知のように、司祭召命減少のみならず引退や病気療養者の増加で、これまでのように小教区ごとに主任司祭を置くことが難しくなってきました。

たった一つの小教区でさえ無くなることを、私たち司祭団も望んではいません。けれども、少ない人数で司牧するためには、小教区を再編することが必要になってきました。

司祭団は今年2月に『小教区再編プロジェクトチーム』を正式に発足始動させ、地区ごとに検討を始めています。各教会の議長様方には、この5月と9月の教区評議会において検討をお願いいたしました。ですから、もうすでに聞いている方々もおられるでしょうが、信徒すべての皆様方に周知していただきたくて、この紙面をお借りしています。

皆様方にお考え、お答えいただきたいことは次のことです。

「司祭が減少しても、どのように司祭も信徒もお互いに補い合い協力し合って、さらに一つになっていけるチャンスの時としていきましょう。

9月の教区評議会総会において、関係資料を小教区議長にお渡ししています。どうぞ、その資料もご覧いただいて、本年いっぱい、話し合いや分かち合いの時を設けてください。皆様方のご意見を基に、司祭団でも話を交わし、来年、未来に向けた教区全体案を提示できるように努めます。もちろん、これからも司祭召命増加のためのお祈りやご尽力もお願いいたします。

したら、皆様方の教会や信仰生活を助けることができますか」

この問いに対する具体的な方策をすべての小教区で考え、それを地区評議会においてまとめてプロジェクトチームに知らせてほしいということです。例えば、「私の教会とA教会は一つになっていける」とか「私たちの地区は、B・C・Dの教会を中心にし、そこから宣教司牧をしてもらいたい」あるいは「自分たちの地区は、4つに区分して、各ブロックに2人ほどの司祭をあてがってもらって協働司牧をしてもらえないか」などのような積極的なご意見をお願いします。

どうぞ、決して悲観的にならず、司祭も信徒もお互いに補い合い協力し合って、さらに一つになっていけるチャンスの時としていきましょう。

9月の教区評議会総会において、関係資料を小教区議長にお渡ししています。どうぞ、その資料もご覧いただいて、本年いっぱい、話し合いや分かち合いの時を設けてください。皆様方のご意見を基に、司祭団でも話を交わし、来年、未来に向けた教区全体案を提示できるように努めます。もちろん、これからも司祭召命増加のためのお祈りやご尽力もお願いいたします。

司祭叙階を前にして

みことばにふれて

シモン 稲田祐馬 助祭

司祭叙階が延び、思いのほか心の整理がつかずに戸惑いました。皆様から励ましの言葉をたくさん頂きましたが、素直に受け止めることもできずにいました。福江教会付の助祭に任命していただいて、私に何ができるか不安に思いながらの着任でした。「恐れるな。語り続けよ。黙っているな。わたしがあなたと共にいる（使徒言行録18・9-10）」

自らを励ますように繰り返し唱える日々でした。助任のキム神父様が走り回っているのを横目に、自分の不甲斐なさを感じました。幸い、主任の中村神父様から、説教を任せていただけましたので、それが楔（くさび）となって、みことばから離れようにも離れられませんでした。

「腐ってもよかたい」そう声をかけてくださる先輩司祭のありがたさを感じながら、助祭としていかに奉仕できるかを模索しました。そしてそれはやはり、みことばに仕えることでした。私に何か語れることがあるだろうか、いやイエス様が語ったことを語るんだと思いながら、恐れるな、語り続けよ……と、このみことばが常にそばにありました。振り返ると、みことばに支えられた半年になりました。

私のために祈ってくださった皆様、感謝してもしきれません。皆様の支えと、みことばによって立ち直ることができたように感じています。これからもみことばにさらに頼りながら、皆様と共に歩ませていただけたらと思います。

略歴　1991年6月11日長崎市生まれ。八幡町教会出身（途中、滑石教会に約15年所属）。2010年長崎コレジオ、長崎大学教育学部、14年日本カトリック神学院入学。19年3月21日浦上教会で助祭叙階。

平和について考え、祈る

平和推進委員会主催 被爆遺構めぐり

75年前の原爆被爆の実相を振り返り、平和について一緒に考え祈りたいと、教区平和推進委員会（岩村知彦委員長）は8月23日（日）「被爆遺構めぐり」を行い、委員を含めた31人が参加した。

午後4時、原爆資料館に集合。「原爆について正しい知識を得る」ことを目指し、玄関前にある「平和の母子像」の見学から、遺構めぐりが始まった。

スタッフの説明を聴く参加者（如己堂）

原爆落下中心地公園では被爆地層を見て、その威力のすさまじさを再確認した。中心地碑の前にある原爆殉難者名奉安箱には、原爆がもとで亡くなった方々の氏名が奉安されている（今年8月9日現在、18万5982人）。続いて平和公園を訪ねた。長崎刑務所浦上刑務支所跡があり、案内板に「爆心地に最も近い公共の建物であった」こと、職員、官舎居住者、収容者計134人全員が即死したことなどが記されている。また少し歩いて山里小学校に向かい、「あの子らの碑」の前で当時の惨状について話を聞いた。

その後、如己堂を訪ね、浦上教会へ。爆風で飛ばされた「教会の鐘楼」や被爆した「聖人像」の前で説明を聞き、解散した。

教皇フランシスコの平和論（2）

回勅『ラウダート・シ』より

長崎教区司祭　山内 清海

1 回勅『ラウダート・シ』とは

教皇フランシスコの回勅『ラウダート・シ』という日本語に訳されていないこのタイトルに、ある種の違和感を持たれた方々がおられたかもしれません。これは、アッシジの聖フランシスコ『太陽の歌』の一節『（わたしの主よ、）あなたはたたえられますように』からとられています。その内容は、従来の教皇回勅が、教会内の人々に宛てられた信仰、道徳についての教えが一般的であることを考えると、今回のそれは、少なくとも直接的には地球環境問題が主テーマですから、やはり「異例だ」とも言えるでしょう。

2 地球汚染の根源

教皇は、こうしてわたしたちが生まれ、生きているこの地球を、わたしたち全人類の「共通の家」、全人類の「産みの母」「育ての母」に譬（たと）えています。それゆえに、人類共通のこの家に住むすべての人は皆、親子、兄弟・姉妹です。わたしたち人類は皆、この共通で大切な「母」なる地球を大切に保護し、次の世代の人々にも、もっと「住みやすい人類共通の住家」として残さなければなりません。

ところが、「現実はどうだろうか」と教皇はわたしたちに厳しく問いかけておられます。そして教皇は、わたしたちの大切なこの地球が、「汚染、廃棄物、そして使い捨ての文化や気候変動などにさらされている」と深く嘆いておられます。教皇は、地球環境の種々の汚染源として、人々が日常的に被っているさまざまな形態の諸原因を列挙しています。例えば、「料理や暖房に使う燃料からの高濃度の排煙」「工場の排煙、土壌や水の酸性化を助長する物質、肥料、殺虫剤、除草剤、そして農薬一般によって引き起こされる汚染、また地域的には、危険廃棄物を含め、残留物によってもたらされる汚染」などもそうです。その他、毎年生じる、数億トンにも及ぶといわれる廃棄物、例えば家庭や職場のゴミ、建築廃材、医療廃棄物、電子機器廃棄物、工業廃棄物など、その多くは生分解性を有さず、高い毒性と放射性を持ったままで放置されています。そして教皇はこのような地球汚染について、「わたしたちの家である地球は、ますます巨大なゴミ山の体をなし始めています。この星のあちこちで、かつて美しかった景観が今はゴミに覆われている」と嘆いています。

3 地球汚染の修復

教皇が、わたしたち全人類の家が、無残にも、種々の汚染によって変形している事実を前に、さてその「修復方法は？」と問いかけているのが、本回勅の第二章においてです。地球は本質的に人類共通の相続財産であり、神が大地を全人類に与えたのは、すべての人々が生命を維持するためでした。ところで前述の生態学的危機に人間的根源を認めるためには、支配的技術主義と、人間およびその行為が世界の中に占める位置についても考察する必要があり、この問題を取り扱っているのが、本回勅の第三章です。ところがこの技術主義は、神が人間に授けた驚異的産物であって、これが良いほうに向かえば、人間の生活を質的に向上させる手段となりますが、逆に、例えば核エネルギーや人間のDNAに関する知識などによって絶大な権力が生まれれば、それは大量殺戮（さつりく）にさえ用いられる危険も生じるでしょう。さらに技術主義は地球規模で拡大し、それがまた近代の人間中心主義的傾向と結びつき、自己の利益に沿わないものは、これを「無用の長物」とみる相対主義が環境悪化と社会崩壊をもたらすことにもなりかねません。つまり地球汚染のあらゆる原因は、密接に関連し合っていて、今日の地球規模の人間的側面と、社会的側面を総合的エコロジーとして、総合的に明確にするのが、本回勅の第四章です。

さて第四章とともに本回勅の中核をなす第五章では、自滅の悪循環を回避する指針と行動を概観するとともに、わたしたちが暮らす地球環境の問題を解決するためには、世界的規模の合意が不可欠であり、持続可能で多様な農業、再生可能で汚染性の低いエネルギーの開発と、効率的な利用などの諸問題も解決されなければなりません。

4 地球汚染問題の解決策

地球汚染の主犯人は、この地球の住民であり、神の代理者として、この地球を治めなければならないわたしたち人間であることを深く自覚し、当然その責任をも負わなければなりません。そこで教皇はこの回勅の最終章で、「地球汚染問題の解決策」に言及します。まず変わるべきは、わたしたち人間ですから、教皇は、わたしたちの新しいライフスタイルを目指した環境教育にも触れ、最後には、「わたしたちの地球のための祈り」と「被造物とともにささげるキリスト者の祈り」など自作の祈りも紹介しながら、この地球上で見捨てられている人々を貪（むさぼ）るのではなく守るために、汚染や破壊ではなく美の種を蒔（ま）くために、「権力や財力をもつ人々を照らしてください。貧しい人々と地球とが叫んでいます…」などと祈らせます。

（次号へつづく）

地球温暖化問題を身近に

カトリックセンター―職員ら 学ぶ

教皇フランシスコが呼びかける自然環境保護に向けた意識を高めようと、「すべてのいのちを守るための月間」開始の9月1日（火）、カトリックセンターで同センターと大司教館の職員や関係者ら計16人が参加し、「ながさき県政出前講座」を聴講した。

テーマは「地球温暖化防止対策の推進について――みんなで止めよう温暖化」。講師は県地域環境課温暖化対策班の水島主任主事。約1時間半にわたって「地球温暖化問題ってなに」「世界の取り組み（パリ協定、京都議定書）」「再生可能エネルギーの現状と課題」「温暖化対策（緩和策、適応策）」「持続可能な社会（SDGs）」に関する講話があり、興味深い内容に皆聴き入っていた。

参加者は、「講師のお話にあったように、毎日の私たちの消費のあり方が企業を変え、政治を変え、社会を変えていくのだと考えると、今後のすべてを決定づけるのは私たち一人ひとりなのだと痛感した」「分かりやすく、本当だったらもっと大勢の人と共有したい内容の講座だった」などと話していた。

長崎教区家庭委員会からのお知らせ

2021年カレンダー「ともにあゆむ」

10月1日販売開始。各教会で取り纏めの上、教区家庭委員会へお申し込みください（Fax095・842・4460）。1冊、税込800円。送料・振込手数料は別。カトリックセンターでも購入可。お問い合わせは（TEL095・842・4450）担当・辻まで。

被爆75年記念冊子 きょうも鳴り響く平和の鐘 お求めの方へ

「教皇訪日と被爆75年を記念して、被爆した浦上天主堂の遺品の中から象徴的な三つを選んでその物語を書きました」。高見三明大司教が手掛けた冊子『きょうも鳴り響く平和の鐘～被爆マリアと被爆十字架のメッセージ～』が、8月末に発行されました（本紙9月号既報）。

冊子をお求めの方はカトリックセンター内の教区本部事務局へ、氏名・送付先・電話番号・部数を明記の上、ファックス（Fax095・842・4460）でお申し込みください。1部500円でお分けいたします。送料（着払い予定）と振込手数料は別途かかります。

《問い合わせ先》長崎教区本部事務局 TEL095・842・4450

写真家 高原 至さん 逝去

被爆後の浦上天主堂を撮影

高原 至さん

ナガサキフォトサービス（現DEITz（ディッツ）株式会社）の設立者で写真家の高原 至さんが8月5日、逝去された。享年96。

長崎の写真を撮り続け、数々の貴重な記録を残された。被爆後の、解体される前の浦上教会も撮影。仕事の一つに1988年、結城了悟神父（イエズス会）との共著『ザビエルの道』がある。97年、天正少年使節帰国後の運命を軸にした、ポルトガルと日本の合作映画『アジアの瞳』特別出演。

上の写真は、2010年発行の写真集『長崎 旧浦上天主堂 1945－58――失われた被爆遺産』の1枚。被爆した旧浦上天主堂の前で遊ぶ子どもたちの様子がとらえられている。

みことばにふれて 173

シスター 北村 央（ちか）

（純心聖母会、ローマ在住）

「神は豊かな憐れみにより、わたしたちを新たに生まれさせ、死者の中からのイエス・キリストの復活によって、生き生きとした希望を与え」（1ペトロ1・3）

私は四季の中で秋がいちばん好きです。ローマで勉強を始めて5年目になりますが、毎年、日本の秋を恋しく思います。ローマの秋も涼しくて食べ物がおいしくていいのですが、学生にとっては新年度開始の時期でバタバタしていて、夏の楽しいバカンスから冬までの時間つなぎ、という感じがします。日本でやるのと同じように、夕暮れを眺めてみたり、お月見をしてみたりしてもなぜか味わえない、日本の秋の、美しさとある種のものがなしさが合わさったあの雰囲気を、心の中に描いては涙の出そうななつかしさを感じています。

使徒ペトロの手紙の冒頭に、神はキリストの復活によってわたしたちに「生き生きとした希望」をお与えになった、とあります。希望をもって前向きに歩く、というのは幸せなことですが、難しいとも感じます。新型コロナウイルスのためにイタリア全土が外出禁止状態になった3カ月間、多くの場面で励ましのメッセージを聞いたり、読んだりしましたが、正直、あまり心に響きませんでした。部屋にとじこもりきりのストレスや、修道院内で新しく決めたルールにお年寄りのシスターがうまく適応できずに苦しんでいる姿を見る悲しさのほうが大きくて、表面上は元気に楽しく過ごしていても、心の奥底では、すごく暗い道を歩いていたように思います。行動が制限されただけでなくて、心の中まで自分で制限して、「こう思ったらいけない」とか「感謝しなくてはいけない」とか、外の基準にしばられて心の自由を失っていました。

ある日、向かいのアパートの窓辺にいた人が、にっこりして私に向かって手をふってくれたときに感じたうれしさは、何気ない小さなものでしたが、私が忘れていた自由な感動であって、それに私は新鮮な驚きを覚えました。私が日本の秋を思うときに感じるなつかしさもちょっとそれに似ています。私の深いところに、理屈をこえた感動があるということ。ここで主と出会うことによって私の自由な「生き生きとした希望」が生まれるのだと思います。

新刊良書

★教皇フランシスコ パンデミック後の選択

本年3月から4月にかけての、パンデミックに言及する8つの文書を収録。コロナ禍にあって、高い感染リスクにさらされながらも他者のために献身する人々に主の慰めを祈り、収入が絶たれたり、在宅要請を守ることが困難であったりする弱い立場の人々に心を寄せつつ、困難な試練を新しい選択のための好機に変えるよう励ますメッセージ。実用的だとの判断だけで、パンデミック以前の社会をただ取り戻すのではなく、互いに連帯を示し、もっとも傷つきやすい人を中心にした社会の構築を呼びかける。カトリック中央協議会、税別500円。

★★★

★ちょっとお話ししませんか 祈りと音楽の調べにのせて

著＝三澤洋史

新国立劇場首席合唱指揮者として、作曲家、キリスト者として、さまざまな音楽づくりに携わる著者が自らの体験から得た音楽観、音楽と祈りの深い関係、そして人間の生きる目的や意味について生き生きとした文体で熱く綴る。ドン・ボスコ社、税別1000円。

ソフィア 山口ナカ修道女

（純心聖母会）

8月1日逝去。94歳。1926年平戸市生まれ。53年入会。56年初誓願。65年終生誓願。

初誓願後は「聖ヨゼフ工場」と呼ばれる印刷工場で業務を行い、その後は鹿児島、東京の純心学園の寮生や修道院、老人福祉施設利用者のためにおいしい料理を提供した。また、司祭や客人の食事、身の回りの世話など多岐にわたる奉仕に尽力。自ら買い物に出かけ、お店の人、出会う人へ温かい言葉をかけ、存在を通して宣教に励んだ。加齢とともに体調を崩し、2013年にロザリオの聖母修道院に派遣、入退院を繰り返しながら体の不自由さを捧げ、祈りのうちに会の使命に与った。

今年7月からターミナル期を過ごしていたが、「私の身も心もいつくしみ深いみ手に委ねます」との言葉を残し、静かに天国へ旅立った。

マリア 橋口ハセ修道女

（お告げのマリア修道会）

8月19日逝去。101歳。1918年長崎市生まれ。31年出津修道院に入会。59年初誓願、66年終生誓願宣立。

入会以来53年間、出津で教会奉仕、幼児保育などに従事した。その後、カトリックセンター、俵町教会の司祭館で奉仕し、71歳の時から90歳を過ぎるまでド・ロ神父記念館に勤務した。ド・ロ師の教育を受けた両親や〝教え方〟から学んだ教え、歌、オルガン演奏などを通して、ド・ロ師の遺産を惜しみなく来訪者に伝えた。単純で天真らんまんなシスターは、マスコミや姉妹に対していつも自然体だった。昨年の骨折以来、介助が必要になり、8月に入って衰弱がみられ、駆けつけた甥である浜口末男大分司教の声に反応し、息を引き取った。

葬儀ミサ・告別式は8月21日、出津教会で行われた。

長崎カトリックセンター前　長崎市上野町1-5　TEL 095-845-6175
医療法人 平田クリニック
院長 ヨゼフ 平田哲也
内科・循環器科・入院可
通所リハビリテーションあり

不動産・会社・法人の登記や相続の手続
司法書士 山下 緑 事務所
代表者 ミカエル 山下 緑
所属 諫早教会　洗礼 井持浦教会　堅信 福江教会　結婚 浦上教会
〒854-0072 諫早市永昌町20-5　電話 0957-25-4886

世界平和へ祈りを…
明治石材
長崎本店　長崎市城栄町13-1
大村店　大村市赤佐古町287番地
HP　http://meijisekizai.shopinfo.jp
業務内容
お墓建立
納骨堂販売
お墓のリフォーム
霊名彫刻
電話 (095)846-3598
電話 (0957)50-3008

人と人の絆を大切に・ご葬儀のご相談は
メモリードホール・典礼会館・中央斎場
長崎・諫早・大村・佐世保
株式会社メモリード　メモリード葬祭 検索　事務局 ペトロ 田川慶司
0120-44-6666

白蟻調査無料・駆除予防工事5ケ年保証付
白蟻防除施工士
大田白蟻研究所
代表者 大島和彦
（〒850-0811）長崎市矢の平1丁目14番15号
☎長崎 095－822－8436
FAX 095－822－8488

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網
エテルナ・ワコー（株）
代表取締役 ミカエル 溝口 晃
〒858－0926 佐世保市大潟町586
TEL(0956)47－4380